

FRONTIER



予測できない未来を切り拓くためには、「既存の方法にとらわれず」、自ら適した方法とその都度選択して学び続けることが必要です。ちばっ子の学びに「ICT」という新しい選択肢を増やしましょう。

実践事例のご紹介～印西市立原山小学校～

* 全校生徒245名、使用OS…Chrome OS

* ICTを利用することが目的化することなく、児童生徒の資質・能力の向上に向けてICTを活用するという視点で実践事例をご覧ください。

評価の3観点

授業改善の3つの視点

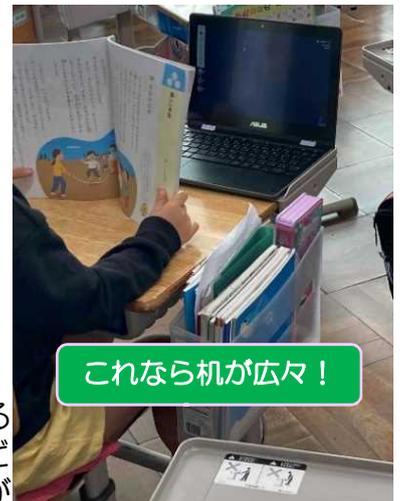
Step 1

ICTを活用するための環境づくり

まずは授業で活用する以前に、ICTを活用して学習する環境を整える例として、児童の机上とその周りに注目してみましょう。

①机周りの収納を工夫して、端末は常に近くに！

* 端末をどこに置くか？を考えると場所をとってしまうもの。文房具のように使うと言いながら、金庫や保管庫に入れたままでは宝の持ち腐れです。常に使える場所に、常に近くに置いておける環境をつくるのが重要です。プラスチック製の収納ボックスを机のフックの部分にかけるなどして、スペースの有効活用をしてみましょう。



これなら机が広々！

②机の面積を拡大！

* どうしても端末が机の大部分を占めることとなります。教科書やノートなども…となると机が狭いと感じる児童が多いのではないのでしょうか？そこで、アタッチメントタイプのものをつけることで、机の上を広く使うことができます。



児童生徒にとって端末を扱いやすくする環境をつくることも大切です！



Step 2

学習支援ソフトで個別最適な学び～小学校算数～

① 個別学習のドリルで思考を深める

* 単純な計算ドリルではなく、さまざまなコンテンツを活用することでより深い学びを実現することができます。

左の写真は、算数（1年生）でピラミッド計算を行っています。

<思考・判断・表現> (深い学び)



思考・判断・表現

深い学び

千葉県教育庁 学習指導課

② かけ算九九を習熟度に応じてドリル学習

知識・技能

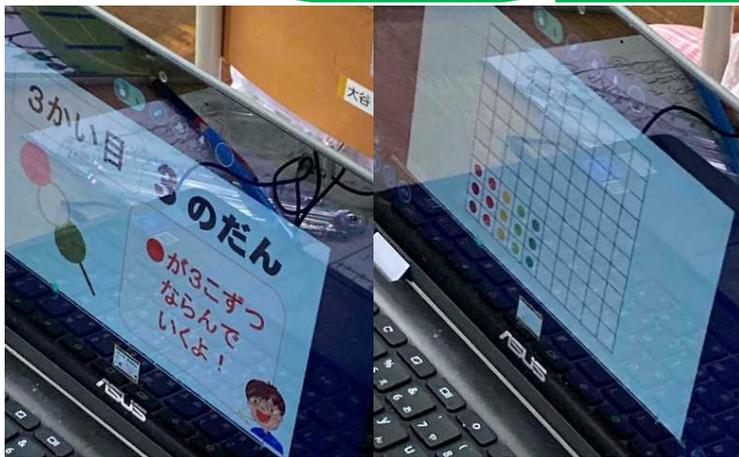
主体的な学び

* 写真は3の段について、串に刺さった団子を例として扱っています。

* 児童自身が自らの習熟度に合わせて、ドリルを選んで学習しています。

* 学習の状況を記録することで、児童が自身の学習の状況について振り返りを行うことができます。

<知識・技能>
(深い学び)



生徒自身が学習の状況を把握しているので、振り返りなどがしやすくなりそうですね！

Step 3

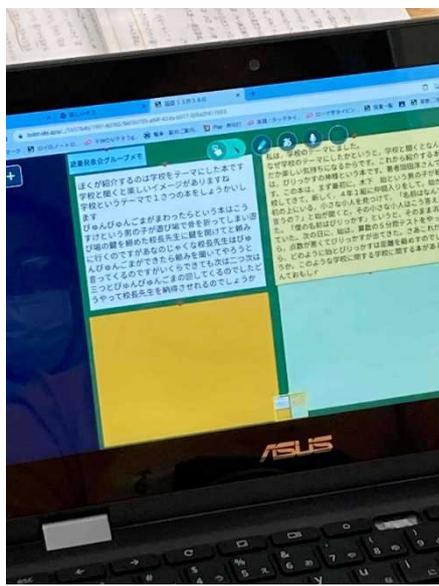
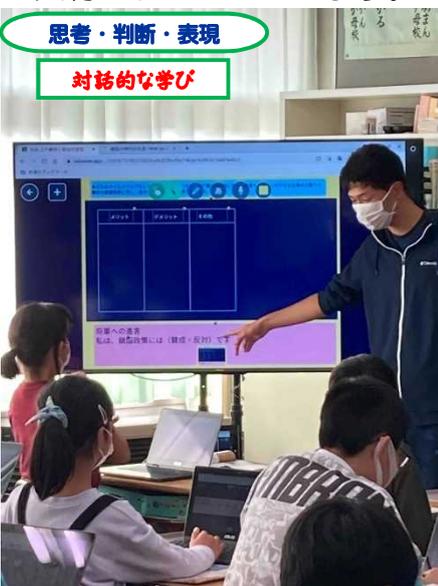
児童の意見を共有する ～小学校社会・国語～

* それぞれの教科で意見などを共有するためにも活用しています。

* 左側は社会科の授業で、江戸時代の鎖国政策について、将軍に対して賛成・反対を提言するという内容です。メリットとデメリットを踏まえて、意見を分類して、大型掲示装置で映し出すことで全体で意見を共有しようとしています。

思考・判断・表現

対話的な学び



C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

* 右側は、読書発表会の発表内容について意見を出し、それをグループで共有しています。

* 協働的な学び・対話的な学びについても一人一台端末を用いて、様々な取組にチャレンジすることができます。

<思考・判断・表現>
(対話的な学び)

印西市立原山小学校のホームページを見てみよう！

今回紹介させていただいた印西市立原山小学校のホームページには、情報活用能力の体系表や情報教育研究計画など、情報活用に関する有意義な情報がたくさん掲載されています。

印西市立原山小学校ホームページ → <http://inzai.ed.jp/harayama-e/>

合言葉は「 I (今までの学びに) C (ちょっとずつ) T (取り入れる) 」